

子どもたちに平和な未来を！

6.20「教え子を再び戦場に送らない」北海道教職員集会アピール

全道の教職員のみなさん

私たち日本の教職員は、かつて軍国主義教育をになわされ、何も知らぬ純粋な子どもたちに「お国のため・天皇のために死ぬこと」を教え、多くの教え子を戦場に送りました。その痛恨の歴史を忘れることはありません。「教育の名で子どもたちの生きる権利さえうばったこの道を、二度とあゆんではならない」。その猛烈な反省と決意のもと、私たち教職員組合は「教え子を再び戦場に送るな、青年よ再び銃を取るな」をスローガンに掲げ、戦後70年間、憲法・47教育基本法・子どもの権利条約の精神を心にきざみ、子どもたちが平和で民主的な社会の形成者として育つよう力をつくしてきました。今ほど私たち教職員組合の存在が、そしてこのスローガンが試されている時はありません。

全道の教職員のみなさん

戦後70年、戦争で殺し殺されることのなかった日本の歴史が、いま、大きくかえられようとしています。集団的自衛権を行使することは、戦争をするために海外の戦闘地域へ自衛隊を派遣することです。それは、日本人が他国の人々の命を奪うとともに、命を奪われることです。さらには、学校教育の役割も変えられ、私たちは再び教え子を戦場に送る役割をになわされることです。

これら世界や日本を戦争の惨禍に巻き込む「戦争法制」を、今国会で数の力で成立させようとする安倍政権の暴挙は、憲法の平和主義と民主主義を蹂躪するものです。戦後民主主義の根本をすべて否定するこの蛮行を、私たちは断じて許すことはできません。満身の怒りをもって抗議します。

全道の教職員のみなさん

安倍政権は、憲法改悪への動きと一体のものとして「教育再生」と呼ばれる一連の教育政策をすすめています。高校無償化を変質させた所得制限の導入、国と首長言いなりの教育行政をねらった地方教育行政法の改悪、教科書の検定基準変更による歴史教科書の改ざん、特定の価値観を子どもに押しつけようとする「道徳の教科化」などは、いずれも愛国心と競争をあおる安倍「教育再生」の具体化にほかなりません。安倍政権は教育を子どもたち一人ひとりの成長・発達を保障するものから、国や財界の求める「人材」を育成するための道具にしようとしています。その行き着く先は「戦争する国」であり、大企業は栄えても人間は置き去りにされる社会です。

全道すべての教職員、市民のみなさん

いま世界では、過激派によるテロ、民族問題、宗教対立、貧富の格差、人権侵害など人間の尊厳にとって危機的な事態が地球的規模で進行しています。これらの諸問題を国際連帯の立場で平和的に解決し、子どもを守り、平和で人間らしい社会をつくるうえで、教育がになう役割はますます大きくなっています。私たちは、憲法を蹂躪し続ける安倍政権に断固対抗していくとともに、教え子を再び戦場に送らないため、「戦争する国づくり」を阻止するとりくみを職場・地域から広げていきます。子どもたちに平和な未来を引き継ぐため、全道すべての教職員、広範な市民の力を結集して全力でたたかいます。このたたかいは、戦後民主主義と世界の平和を守るものです。「戦争法制」成立阻止のため、共に立ち上がることを呼びかけます。

2015年6月20日

6.20「教え子を再び戦場に送らない」北海道教職員集会